

## ヨハネ 2 : 1-25 「喜びと裁き」

2:1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、そこにイエスの母がいた。 2:2 イエスも、また弟子たちも、その婚礼に招かれた。 2:3 ぶどう酒がなくなったとき、母がイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。 2:4 すると、イエスは母に言われた。「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」 2:5 母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」 2:6 さて、そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、それぞれ八十リットルから百二十リットル入りの石の水がめが六つ置いてあった。 2:7 イエスは彼らに言われた。「水がめに水を満たしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。 2:8 イエスは彼らに言われた。「さあ、今くみなさい。そして宴会の世話役のところに行って行きなさい。」彼らは持って行った。 2:9 宴会の世話役はぶどう酒になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったのだから、——しかし、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた——彼は、花婿を呼んで、 2:10 言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、人々が十分飲んだころになると、悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒をよくも今まで取っておきました。」 2:11 イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。 2:12 その後、イエスは母や兄弟たちや弟子たちといっしょに、カペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在された。 2:13 ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。 2:14 そして、宮の中に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわっているのをご覧になり、 2:15 細なわでむちを作って、羊も牛もみな、宮から追い出し、両替人の金を散らし、その台を倒し、 2:16 また、鳩を売る者に言われた。「それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」 2:17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い起こした。 2:18 そこで、ユダヤ人たちが答えて言った。「あなたがこのようなことをするからには、どんなしるしを私たちにを見せてくれるのですか。」 2:19 イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」 2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」 2:21 しかし、イエスはご自分のからだの神殿のことを言われたのである。 2:22 それで、イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこのように言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばとを信じた。 2:23 イエスが、過越の祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行われたしるしを見て、御名を信じた。 2:24 しかし、イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり、 2:25 また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。

## 導入

今日初めて OIC にいらっしゃって、この 2 週間のメッセージを聞いてない方もおられるかもしれませんので、今まで学んだことを振り返りましょう。

今私たちは、ヨハネの福音書からイエスの人生について学んでいます。

ヨハネの福音書の中心となる聖句は、ヨハネ 20 : 30-31 です。

20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行われた。  
20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

ヨハネは、この目的のためにすべてを記しました。そのことを常に念頭においておく必要があります。

1: 1-18 は、ヨハネの福音書の序論でした。ヨハネは、この冒頭部分で、自らが記す福音書の内容を大まかに紹介します。ここでヨハネが紹介するテーマはそれぞれ、本論部分に関連個所があります。

ヨハネの福音書を学び進めていくうちに、それらのテーマを取り上げることとなります。

1-18 節の序論は、美しい建造物の入口に立つツアーガイドのようなものです。ガイドは、その建物に入る前に見どころを説明します。それを聞いた旅行者は、入口にいるときから中でどんなものが見られるかと楽しみにします。

ヨハネは、光、やみ、いのち、神の栄光、恵み、などの単語を用います。また、イエス・キリストを旧約聖書に登場する「ことば」になぞらえ、イエスの神性を示します。

旧約聖書における「ことば」とは、すべてを創造し、すべての生物にいのちを与えた神です。この福音書では、イエスを信じて受け入れることや、神によって新しく生まれることで、神の子とされることも記されています。

続いて 1 章 19-34 節では、バプテスマのヨハネがイエス・キリストについて証言します。

ヨハネは、旧約聖書におけるメシヤの来臨に関する預言とイエスを関連付けます。ヨハネは読み手に、イエスは世の罪を取り除く神の小羊だと言います。

ヨハネ 1:29 その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

当時これを読んだ人々は、幕屋や神殿でささげられるいけにえの制度についてよく知っていたはずですが。罪のある人の罪を覆うために、罪のない命が殺されるのです。

35-51 節では、イエスに従った最初の弟子たちとイエスとのやりとりが記されています。この個所で、イエスのご自身が神と同じ性質をお持ちであることを示されます。その性質とは、全知全能で遍在であることです。1 章の最後は、さらに大きなことが起こるというイエスの約束で終わります。

では、2 章に入ります。この章には、ふたつの主なテーマがあります。

1-12 節のテーマは「喜び」、そして 13-25 節のテーマは「裁き」です。

イエスが水をぶどう酒に変えるという奇跡を起こされた婚礼の話に入る前に、旧約聖書の背景を知る必要があります。

イスラエルの民がバビロン捕囚であったとき、神は預言者を遣わして、民に課題を与えられます。また同時に、いつの日か神が民をイスラエルに連れ帰り、神が民の間に住まれ、民が「神に喜んで従う」日が来ると言って、民を励まされました。その地には、良質の食物とぶどう酒がたくさんあります。アモスは、ぶどう酒が山からしたたると言いました。

アモス 9: 13-15

9:13 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日には、耕す者が刈る者に近寄り、ぶどうを踏み者が種蒔く者に近寄り。山々は甘いぶどう酒をしたたらせ、すべての丘もこれを流す。 9:14 わたしは、わたしの民イスラエルの繁栄を元どおりにする。彼らは荒れた町々を建て直して住み、ぶどう畑を作って、そのぶどう酒を飲み、果樹園を作って、その実を食べる。 9:15 わたしは彼らを彼らの地に植える。彼らは、わたしが彼らに与えたその土地から、もう、引き抜かれることはない」とあなたの神、【主】は、仰せられる。

アモス書やイザヤ書の預言から、メシヤ時代がまだ完了していないことがわかります。

ここでイエスは、水をぶどう酒に変えることで、将来の様子を垣間見せてくださいます。

当時のユダヤ人たちは、これらの預言をよく知っていました。

これを念頭に、婚礼の部分を学んでいきましょう。

この時代、ユダヤの結婚式は一大行事でした。現代の結婚式とはまったく様子が違います。

聖書の時代の結婚にはいくつかの段階があります。まず、第一段階で、新婦の父が婚姻届に署名をし、法的な契約が交わされます。その後、ふたつの段階を踏み、最後に結婚の祝宴が開かれます。たいていは、新郎の実家か親戚の家で行われました。

結婚の祝宴は一週間も続くことがありました。マリヤはここで給仕の責任者だったようです。マリヤと新郎は親類だったと考えられます。

マリヤの夫のヨセフがこのときいなかったことはわかりますが、なぜかはわかりません。もう亡くなっていたのかもしれませんが。

食べ物やぶどう酒が足りなくなったら、マリヤは大恥をかくことになります。

昔ですから、コストコやスーパーに車で出かけて行って、食べ物やワインを買い足すことはできません。前もってしっかり準備をし、結婚の祝宴にどれだけ食べ物やぶどう酒が必要か見当をつける必要がありました。

歴史家によると、結婚式で食べ物や飲み物が不足したことで裁判になることもあったと言います。

ですから、ぶどう酒が途中でなくなったらたいへんです。マリヤは大恥をかきます。

ぶどう酒がなくなってしまったとき、マリヤが頼りにできたのはイエスだけでした。このときすでに、イエスは 30 歳を過ぎていましたから、ユダヤの文化ではりっぱな大人だと見なされていました。

マリヤは、ぶどう酒がなくなったことをイエスに伝えました。するとイエスは、「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」と答えました。

まず、イエスのおっしゃったことについて考えましょう。イエスは「お母さん」ではなく、「女の方」と言われました。なぜでしょう。また、マリヤをいさめておられるようです。なぜでしょう。

アメリカの有名な聖書説教者であるドン・カーソンは、これについてこのように説明します。

「このできごとがきっかけで、マリヤはイエスとの関係を改めなければならなくなった。マリヤがイエスを神として受け入れ、信徒としてイエスを信じたとき、その信仰が受け入れられ、イエスは水をぶどう酒に変えてくださった。」

ドン・カーソンの解釈は正しいと思います。

イエスの言葉は多少厳しく不快に感じられますが、マリヤがイエスを神の子として信じるようになる道を開いたのです。ここで、ヨハネの福音書の目的が実りはじめていることがわかります。マリヤは、イエスを神の子として信じる信徒の先がけとなりました。

この婚礼で、マリヤはふたつの祝福を受けました。罪の問題が解決し、ぶどう酒の問題も解決されました。

マリヤは罪の性質をもって生まれたので、罪の赦しを受けるためにイエスを信じる必要がありました。

マリヤは手伝いの人たちに「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」と言いました。

ここでイエスが水を変えて作られたぶどう酒は、安物のぶどう酒ではなく、最高級のものでした。

この奇跡を起こす大きな目的をイエスは持っておられました。ヨハネは 11 節でそれを説明します。

**2:11** イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

神の栄光が現され、弟子たちがイエスを信じたのです。

弟子たちはこれを見て信じました。これは、ヨハネの福音書のおもな目的とつながります。

次の部分に進む前に、11 節をご注目ください。ヨハネは、「このことを最初のしるしとして」と語りま

す。

しるしとはどういう意味でしょう。

しるしとは、隠された霊的な真理を指し示す、目に見える奇跡のことです。イエスの奇跡は、単なる力の表示ではありません。人を感心させるためになされることは決してありませんでした。イエスの奇跡は、力を表すことで、そこに隠された霊的なことを指し示しました。そういったことは、「信仰の目」をもってのみ理解が可能になります。

これは最初のしるしとなりました。この奇跡は、水をぶどう酒に変えましたが、そのおもな目的は、奇跡の裏に隠された霊的な意味を人々に指し示すことです。

ヨハネの福音書には、7つのしるしがあって、その最後はラザロの復活だと言う聖書学者もいます。奇跡が起こされたのは、人々がイエスを人の姿をした神であると信じ、このお方に信仰をおくことです。そうすれば、その人たちは主にあつて新しい命を得ます。こうして、福音書が書かれた目的が果たされます。

今日の私たちにとってはどういう意味があるでしょう。

それをここではふたつの部分にわけて説明します。

- a) まず、イエスが水をぶどう酒に変えられた事実は、神の栄光がイエスという人としてあらわされたことを物語ります。メシヤ時代の幕開けです。ともに喜びましょう。ぶどう酒はあふれています。神をたたえ、喜びにあふれましょう。

イエスを信じて喜びを持ちましょう。喜びは、周りの状況に左右されません。神に対する心の状態です。

クリスチャンなら、心に喜びを持てます。年老いていても、貧しくても、病気でも、そのすべてに当てはまっても、喜べます。それは、罪が赦されて、天国で新しい体が与えられるからです。

- b) 次に、将来についてです。旧約聖書を学べば、イエスに関する預言の多くがまだ成就していないことがわかります。

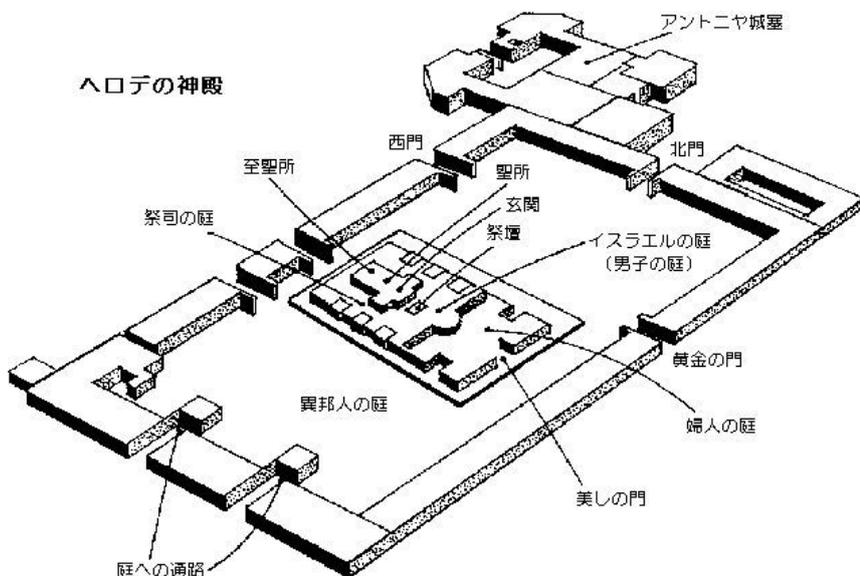
神はご自身のことばに忠実ですから、イエスが再臨されたときにこれらの預言が成就します。私たちはこれを楽しみにするべきです。今日はこれらの預言についてお話する時間がありませんが、いつかそのような学びもしたいと思います。今日一言だけにまとめると、イエスがいつかこの地球に戻って来られ、その日、イエスを信じる人々は非常に喜び、イエスを拒んだ人たちはたいへん悲しむと、聖書ははっきり教えています。

私たちには、現在の喜びと将来の喜びがあります。イエスの弟子になれるというのは、なんとこの光栄でしょう。

2章の後半は、喜ばしい内容ではありません。イエスが腐敗した礼拝を見過ごされないという重大な警告です。また、心から誠実にイエスについていけない人を、イエスは受け入れてくさいません。

## 2. 裁き - 13-25 節

この箇所を詳しく学ぶ前に、旧約聖書の神殿について知る必要があります。（マラキ 3 : 1-5）



神殿は、野球場やサッカー場ほどもある大きな建物でした。

エルサレムで神殿のあった場所を歩きましたが、とても広い場所です。

幅 450 メートル、奥行 300 メートルほどです。

それは、神が民とともにおられた場所です。最初、幕屋が荒野に建てられました。庭で血のいけにえがささげられました。会見の天幕の中はふたつの部分に分けられ、聖所と至聖所がありました。

聖所には、7本立ての金の燭台がありました。（ヘブル語＝メノラー）大きさは、高さ 1.5 メートル、幅 1 メートルほどです。また、純金のオイルランプがありました。これが内部を照らす唯一の光です。また、香壇と机があり、安息日ごとに机の上に新しいパンをささげます。

至聖所は、大祭司が年一度だけ入ることを許される場所で、契約の箱が置かれていました。これは木製の箱で、中には十戒と、神が荒野で民を養ったマナの入った容器がありました。

そして最後に、贖いのふたです。これは、契約の箱のふたで、金でできており、ふたりの御使いが羽を広げている様が彫られています。

出エジプト 25:22 わたしはそこであなたと会見し、その『贖いのふた』の上から、すなわちあかしの箱の上の二つのケルビムの間から、イスラエル人について、あなたに命じることをことごとくあなたに語ろう。

神殿は、幕屋の複製ですが、テントではなく建物です。

形状は変わっても、神が民の間に住まわれるという考え方は同じで、聖なる場所でした。

時代を経て、神殿は祭司たちによって汚されました。神の預言者は、神の代弁者として祭司たちの行いについて警告をし続けました。そのひとりであるマラキは、エレミヤと同じ時代の預言者ですが、このように言いました。

(マラキ 3: 1-5)

3:1 「見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、来ている」と万軍の【主】は仰せられる。3:2 だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現れるとき立っていられよう。まことに、この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。3:3 この方は、銀を精錬し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粹にする。彼らは、【主】に、義のささげ物をささげる者となり、3:4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、ずっと前の年のように、【主】を喜ばせる。3:5 「わたしは、さばきのため、あなたがたのところに近づく。わたしは、ためらうことなく証人となり、呪術者、姦淫を行う者、偽って誓う者、不正な賃金で雇い人をしいたげ、やもめやみなしごを苦しめる者、在留異国人を押しつけて、わたしを恐れない者たちに、向かう。——万軍の【主】は仰せられる——

マラキは、裁きがやってくると警告しました。イエスが神殿に着いたとき、罪に対する怒りに満ち、細い縄でむちを作って、商人たちを神殿から追い出しました。彼らは、いけにえを法外な値段で売りつけようとする悪い人々でした。

ここで、私たちがあまり見たくないイエスの姿が描かれています。

それは、イエスがお裁きになる姿です。いつの日か人は誰でもキリストの裁きの座の前に立つことになると、聖書ははっきり語ります。

Ⅱコリント 5:10 なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。

イエスのこの行動を見て、弟子たちは詩篇 69 : 9 を連想したことでしょう。

18 節で、ユダヤ人たちはイエスにしるしを求めました。

ユダヤ教指導者たちは、イエスの行動に不快感を示し、どういう権威があつて神殿から商人たちを追い出したのか問い詰めたのです。

19 節でイエスはこう答えます。

2:19 イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」 2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」

このとき弟子たちは、イエスが何を言っておられるのかわかりませんでした。けれども 22 節から、イエスがよみがえられた後になって、弟子たちがイエスのこの言葉の意味を悟ったことがわかります。

23 節には、イエスが過越の祭りの期間にエルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行われたしるしを見てイエスを信じたとあります。けれども、イエスは、ご自身を彼らにお任せになりませんでした。それは、すべての人の心の内を知っておられたからです。

現代日本にいる OIC の私たちには、どんな意味があるでしょう。

イエスは、ユダヤ人たちが思い描いたような快適な方法で旧約聖書の約束を成就されませんでした。イエスの来臨は、現状に対する異議を意味しました。ユダヤ人の腐敗した礼拝への裁きでした。

イエスが後に神殿での礼拝に取って代わられるわけですが、このときは、イエスはご自身の神殿を汚す人々がいるという裁きをされました。

私たちはどうでしょう。イエスがどういうお方で、何のために来られたのか、私たちも知る必要があります。

私たちの必要を満たすために来られた守り神ではありません。このお方は、私たちの人生の救い主であり、主となるべきお方です。

イエスは、私たちの期待通りに動かれるとは限りません。それはなぜでしょう。

私たちを訓練して弟子とされるからです。つまり、イエスのみこころのとおり、イエスに仕えるということです。それは、私たちがやりたいと思う方法でないかもしれません。不純な動機でイエスを礼拝していることも多々あるからです。私たちが礼拝する動機をイエスは裁かれます。

課題 一 快適さを失っても救い主イエス・キリストから学び、信仰の成長を遂げようと思いませんか。そうでありたいものです。イエスは、当時の宗教家たちの心をかき乱しました。私たちが誤った動機や目標を持っていると、私たちの心もかき乱されるでしょう。イエスは、つらい経験をとおして私たちが主のもとに近づくよう導いてくださいます。

最後に、大自然の例をお話しましょう。

あおむしは、自分でさなぎの殻を作ります。そして、羽化して蝶になるときは、小さな穴から自力で出てきます。これは非常に困難な作業です。この様子を見てみると、穴を出ようと悪戦苦闘する蝶がかわいそうになります。蝶が出てきやすいように穴を広げてやろうという気になります。けれども、それは大きな間違いです。小さな穴を必死に出て来るといふ重労働のおかげで、羽が強くなって飛べるのです。もし穴を大きくしてしまうと、蝶は簡単に外に出られますが、飛ぶことができなくなります。羽に圧力がかかることで、飛ぶのに必要な力が備わるのです。

ある少年は、蝶が穴を必死に出ようとしているのがかわいそうになって、穴を広げてあげました。蝶はすぐに外に出られましたが、飛ぶことができませんでした。

神は、自然の現象から私たちに教えてくださいます。

神は、私たちにもつらい経験をさせられます。それは、私たちを傷つけるためではなく、強くするためです。主と主の全能の力によって私たちが強められるからです。神から試練をいただいているなら、あなたは強められ、いつの日か用いられるでしょう。

最後に、主を喜ぶことは私たちの力であることを覚えておきましょう。

詩篇 30:5 はこう語ります。「まことに、御怒りはつかの間、いのちは恩寵のうちにある。夕暮れには涙が宿っても、朝明けには喜びの叫びがある。」

いつも偽りのない心でイエスを礼拝できるよう気をつけましょう。聖霊に練っていただけるよう神に心を開きましょう。そうすることで、神の御名をたたえることができるからです。